

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第74号 (2022.7.17-2022.7.24)

- ◆ 参加者 藤井卓、magwort、電軍侍、太代祐一、日下臭、小沢史、しまねくん、めい、風池陽一、涼閑、susya、夏野ネコ、蜜、西脇祥貴、式定住佳、高田月光、石原とつき、まつりへきん、石川聡、雲上晴也、海馬、蔭一郎、あ、菊池洋勝、達昆虫、takom、玖、輪井ゆう、馬勝、旦篠輔、天やん、rajin、以太、木野清瀬、東ころろ、雷(らい)、みんみん、crazy lover、水の眠り、架月梓希、白石ボビー、棚場田敦也、思雨(スイ)、ナカキカク、西沢葉火、岡村知昭、星野響、みや、鷺沼くぬぎ、Ryu\_sen、日月星香、鴨川ねぎ、蛙星、たろりずむ、夜想詩人、桔梗童、Nichtraucherchen、Tomoko、小間、ニシカワ、森村明、汐田大輝、ゆりのはな、片羽雲雀、むしみんママ、悠庵、冬美(ふゆ)、funnylady、ないり、洞窟おでん、檜崎進弘、mikuszu、うつりにけりな、抹茶金魚、まなやん、月波与生(七六名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

- 婚期を逃すダブル抹茶ティーラテ Ryu\_sen  
通訳に省かれた If Possible, たろりずむ  
失せ物は午睡の夢の周遊券 星野響  
飛べないトンボが外した眼鏡 木野清瀬  
皆一人で彷徨うガラスの迷路 輪井ゆう  
雨かしらと臍が呟いたやうな 藤井卓  
ああこれが月の茸かいう貌で 藤井卓  
戻り梅雨ダウンロードは違法です しまねくん  
漆黒の放水車から撒かれる酢 岡村知昭  
取り外されてまるい東京 西脇祥貴  
むねやけはむからほいて浮薄なりボン 西脇祥貴  
出梅の太陽高し自洗かな 菊池洋勝

山桃のジャム売る人の車椅子 菊池洋勝  
駅までは歩幅広げて雲の峰 雲上晴也  
巻いたらクレープ咲いたらさいたま市 海馬  
あんみつをこぼせば待つてゐる別れ SYUSU  
レンタルの蜜豆だから見てるだけ しまねこくん  
そうですわたしがあの再生回数です 太代祐一  
旧道のなきぼくろ（見ないで焼いた） 西脇祥貴  
下敷きで髪を逆立てる秘書は何人 海馬  
両親に紹介できぬアロハシャツ 馬勝  
テロリスト養成講座（浄水器） 以太  
茉莉花や校則変はりゆく女子校 SYUSU  
キャンセルの電話が長い湯治客 西沢葉火  
白玉を耳たぶという君と吸ふ 石川聡  
冷蔵庫の閉め方がもう実家です 太代祐一  
眉にだけ吹く風 雷  
感情にリアコと名付け夏の花 東ころろ  
てのひらの桃が転調する時間 小沢史  
うすものの向こうに見える天気雨 蔭一郎  
敷き詰めた一円玉へダイビング 蔭一郎  
夏と書いてビール まつりぺきん  
月面は地球へ向いた方が裏 以太  
百足とは云へど指紋は一つのみ しまねこくん  
詐称した家系図だったメロン切る 馬勝  
弁当を開ければ海苔で大暑の字 石川聡  
ふくらはぎ下のあたりがアブルツツオ 石川聡  
裏垢の鼻のピアスや四鮎 菊池洋勝  
しんぶんを絞りきる握力が足りない 海馬  
郵政民営化を思いだす百日紅 海馬  
膝のうらの海が午後でも暗いまま 海馬  
シロップをそのまま飲み干して大暑 高田月光  
流星やからだでふ空擦り剥きて 高田月光

明朝体の声になったわさようなら 小沢史  
標高を次も上げゆく登山かな 風池陽一  
不安なら河童の国に来ませんか 達毘古

桐始めて花を結ぶや衣干す *mugwort*

流れゆく 雲見上げけり 土用波 電車侍

大暑を過ぎて蝉が交代した森に来春を思う 日下昊

空調は鬼火冷え冷え夏の夜 涼閑

夏の夜は氷の様に溶け 眠る 一休庵

旧道の大暑に渴いた骸あり あ

わき芽摘む優生思想と青トマト *naokom*

人形や湯気立ち上る草津の湯 玖

牡である私の背中で蝉が鳴く 且悠輔

銃磨くローンウルフや芝桜 天やん

曜日から抜け出したくて夜を編む *rajiimi*

気ままなり積乱雲の立ち上りたる みんなん

キャミソールピンポン鳴ったらどうしましょ *crazy*

*lover*

桃源へ羅(うすもの)纏い誘われて 水の眠り

褒められて恥ずかしいのは嘘だから 思雨(スイ)

バンゲリングベイ祖母を哀しました *yesterday* ナカキカ

ク

蜜柑より赤い西陽の差す居間で 鴨川ねぎ

ガムランに揺らめく遠い夏の海 鷺沼くぬぎ

斜雨降る日蝉も斜めに飛ぶのかな 日月星香

欲しいのは理解しあえる同士だけ 蛙星

夏だけと鉢ごと買った鬼灯を 黎明

何も無い今日一日を何度でも 棚場田敦也

裏切りの木にふわふわの肉つぶて 小間

海の日の寝すぎた午後はちよつとしょっぱい ニシカワ

その指で私を殺して青鬼灯 森村明

句読点打って気体になるんだね 月波与生

◆ 7・7、5・7・7・5以外の短詩

文字たちは解放されて線になり紙飛行機を攻撃します  
一 蔭

常識という我儘に包まれて触手をのばす海月になって  
め

い  
星たちを見送る青い薄明のセンターライン 靴を脱ごうか  
夏野ネコ

自分だけ自分だけがと思ひ込む幸も不幸も視界の狭さ 弍  
定住佳

優しさは千円札を店員に向けて渡すぐらいで十分 架月梓  
希

飲みかけで置いていかれたチューハイをチェイサーにして  
円盤を呑む 白石ポピー

わたしの直近の夢は、眠って今日一日を終えること 棚場  
田敦也

夏薔薇に青を望んでいるようなはかない恋をちぎり続ける  
みや

満天の夜空を知らぬ私たち眠らぬ街の星に守られ 夜想詩  
人

鍋いっぱい茹でた。パスタは 一人分 一人あとから食べる夏  
休み Tomoko

張りぼての景色はすぐに崩れゆく三丁目行き急行電車 汐  
田大輝

日常が分からなくなる夏の朝分らないけど蟬だけは鳴く  
ゆりのはなこ

中指を立てない人の目に映る俺は立派な sonic reducer  
片羽雲雀

ツイッターに別れを告げんと思いつつ夜更けに探すスマホ  
かな むくみんママ

◆ 詩

私の中で溶けてって  
アスピリンに  
愛を込めて  
痛みで夜が摩耗する前に (蜜)

「れ……恋愛というやつか」「……わからない……」深く肯  
く吾も魔族なり (Nichtraucherchen)

◆ 作品評から

不安なら河童の国に来ませんか 達毘古  
～行きたいです (冬美EDL)

キャミソールピンポン鳴ったらどうしましょ crazy  
lover

～ノースリーブババアがスリッパ(あえてこの言い方)姿  
で私の隣の独居老人(男性)の家から出てきた事あるよ  
(FunnyLady)

～私の母と一緒だわ笑 (ないり)

奥歯にものが挟まったようなミスチル 海馬

～先日「キングダム2」を観たがエンディングの曲がミ  
スチル。映画もまだまだ続きそうだしミスチルの歌も「キ  
ングダム」のスケールと合っているんだかないんだか。  
(月波与生)

新月やあなたにあげた資生堂 原点

↳「資生堂」が効果的。固有名詞でありながら読み手のイメージをうまく拡散している。(月波与生)

敷き詰めた一円玉へダイビング 蔭一郎

↳なんかイイ(洞窟おでん)

郵政民営化を思いだす百日紅 海馬

↳そして国鉄民営化と国鉄スワローズの金田正一投手。

(檜崎進弘)

盆踊りにまぎれて峰打ち 石原とつき

↳峰打ち(した)のか(された)のかわからないから読み手は想像で補う。動詞を隠すと読み手は立ち止まる。隠された動詞を「盆踊り」という動作が補う。(月波与生)

ふくらはぎ下のあたりがアブルツツオ 石川聡

↳調べてわかりました。地球にあるふくらはぎ下のあたり

り!!! (miki suzu)

流星やからだでふ空擦り剥きて 高田月光

↳「からだでふ空」がわからないので、教えていただけると嬉しいです(うつりにけりな)

膝のうらの海が午後でも暗いまま 海馬

↳何か《のうらの》何か《が午後でも暗いまま》はありがちな光景の語りで、その何かに膝と海をそれぞれ当てはめた作りだと思ったのですが、実景のよううでいて喻にも読めてくる、その丁度良いところにある言葉が選ばれているように思いました。膝の裏の感触であり海の翳りであり午後の気分でもあるような。(抹茶金魚)

巴里祭やなにもない日に「萩の月」 玖

「萩の月」は仙台の銘菓。親しき人のおみやげに欠かせない。巴里祭（パリ祭）は「月」<sup>14</sup>日、フランスの革命（1789）記念日。なにもない日に良き来客があったことを句は伝えている（月波与生）

飛魚や空跳ねるとき息を止め 宮坂愛哲

「大海から数百数千の飛び魚がいつせいに空跳ねるとき、確かに時間が止まったのだろう。「息を止め」が効果的だ。（月波与生）

銃磨くローンウルフや芝桜 天やん

「うまい（まなやん）」

寝たふりの君に *Smile* をタッチする 太代祐一

「タッチされたときの返しが重要だ。「ピッ」は平凡、「ピ」は夢がない、「ピ。ピ。ピ。ピ。」なら喧嘩になるかも。さて、どう返そうか。（月波与生）

むねやけはむからほどいて浮薄なりボン 西脇祥貴

「胸焼け ハム唐 って読んで、確かにハムの唐揚げだったら胸焼けするかも? などとぼんやり共感しました。

「む」って字面でもう、リボンを結んであるっぽいですね。それもゆるーく。このゆるさ<sup>15</sup>浮薄のイメージとリンクしてきます。ちよつと引つ張ればハラハラと胸焼けはほどこけて楽になりそう（石川聡）